

NPO法人 学習塾全国連合協議会

NPO 塾全協

塾全協通信

題字：怜齋（白川亮 進ゼミ柏）

伊藤政倫先生。皆さんご存じのとおり公益社団法人全国学習塾協会の前会長でした。たまたま FACEBOOK で「友達」になっていただきましたが、そのときは伊藤先生はモンテッソーリ教育の勉強のためヨーロッパに滞在中でした。投稿を読むと正にサムライの武者修行！よく野垂れ死にできなかったなと感心するほどでした。帰国なさってから東京でモンテッソーリスクールを開業されたと知り、心の中でおめでとうございましたと叫びました。50 の手習い都言いますが、伊藤先生は 60 の手習いです！実は私は伊藤先生と同じ学年ですが、こんな真似絶対に出来ません。恐れ入りました。

中村基和

NPO 塾全協 50 周年記念大会

日時：2025 年 11 月 2 日(日) 第一部 15:00～17:30 第二部 18:00～20:00

場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館) 来場者:約 60 名 レポーター:中村基和

第一部 全国研修大会

テーマ：モンテッソーリ教育とフリースクール

講師：伊藤政倫先生(酷使モンテッソーリ協会 正会員)



伊藤政倫先生のプロフィール

- 1974～1980 城南学園教育研究所(株)講師
- 1980～2013 KSK 進学塾(株)代表取締役
- 2007～2013 公益社団法人全国学習塾協会会長
- 2013～2015 イタリア(Bergamo:CISM)留学
- 2015.9～12 実習訓練(London, Brighton, Lyon)
- 2016.1～4 オランダ公立(Casa Montessori)教師
- 2016.9～2017.5 スペイン City Country Montessori School 教師
- 2018.6 東京モンテッソーリ小学校開校
- 2022.4 東京モンテッソーリ中学校開校

《講演概要》（「だ、である」調にしてあります。）

私は元々塾人なので塾人として話をしたい。

モンテッソーリの教育入ったそもそものきっかけは、2002年にギリシアに行ったとき、向こうにモンテソーリ教育の会があり、そこで日本の塾の話を聞こうと招待されて講演をさせて貰った。講演が終わってから年配の方が、「日本を見習え。頑張っているじゃないか。素晴らしい時計やカメラや自動車を作っているじゃないか。それに比べて今のギリシアは何だ。かつては世界の数学をリードした国なのに、今の若者の中にソクラテスやプラトンを原語で読める者はいない。これは先生たちが楽をするために教科書の中身を版分にしてしまったためだ。」といった。私は通訳の人からこれを訳して貰って聞いて背筋がぞっとした。これって10年たったら自分が言うことだねと思った。その当時はゆとり教育が始まり、10年経ったところだった。1992年の教科書3割カット、さらに2002年の3割カットで甲賀署は約半分になってしまった。ギリシアと同じだ。ギリシアはどうなったかという‘ギリシア危機’。日本もそうなるかと思い、政治で変えて行こうかと思ったが、考えが浅はかだった。途中で断念してしまった。塾もなくなり何もかもなくなったところで、稲葉先生に横浜にあるモンテッソーリスクールをご紹介いただいた。はじめはあまり興味がなかったが、その校長先生に「イタリアに行ったら」と言われ、私はピザが好きなので30秒で「行きます！」と答えた。61歳でイタリア留学することになった。これがモンテッソーリの始まりだったが、喫して高尚な志も持ったの事ではなかった。

マリア・モンテッソーリは1870年にローマの近くの小さな街で生まれ、5歳のときにローマに移った。大学は医学部に入ったが、当時は彼女以外の学生は全部男性で、いろいろ差別を受けた。例えば解剖には立ち会わせて貰えなかった。彼女は内科でも外科でもなく精神科の医者になった。彼女は精神に障がいのある子どもたちの施設で子どもたちの観察をしたところ、障がいのある子どもたちも勉強が出来るようになることを知った。ならば障がいのない子に同じ事をやったらもっと出来る様になると考えたのがきっかけであった。これがモンテッソーリ教育の始まりであった。マリアは息子（写真左）と一緒にモンテッソーリ教育を始めることになった。



イタリアで大変効果を上げたが、当時のイタリアはムッソリーニの時代で、彼女の自由な思想のため迫害を受け、アメリカに行った。その後スペインに行ったが、やまりあまりに自由教育過ぎるという事で迫害を受けた。そしてロンドン、オランダにいった。ロンドンいるときにインドのマハトマ・ガンジーと出会う。ガンジーはモンテソーリ教育が大変気に入り。マリアをインドに招待した。戦時中のためマリアは国に戻れず、インドで10年教えることになった。1948年にイタリアに戻り、そのあとオランダに行った。

モンテッソーリ資格を取るのに2年かかった。そしてヨーロッパで修行してから日本に戻ろうと決め、モンテソーリ教育が一番盛んなロンドンに行ったが、モンテッソーリスクールは敷居が高く、見学させて貰うのに3か月かかった。その間フランスやオランダに行き、オランダで就職のオファーがあった。オランダのモンテッソーリスクールは公立で、月謝は1万円もしなかった。しかしイタリアで学んだものとは全く違うので、辞めさせて貰い、イギリスのブライトンのモンテッソーリスクールに行った。ここがその後の私のモンテッソーリスクールの元になった。それからヨーロッパ中のモンテッソーリスクールに就職の申し込みをしたが断られ続けた。理由は、①ヨーロッパは白人社会で、東洋人は1ランクか2ランク下に扱われてしまう。②私は60代半ばで年をとっている。③男である。（モンテッソーリ

スクールの先生は殆ど女性で、男が入ってくると違和感が生じる。) ④皆が欲しがるのは native English speaker.

最後に、オランダに用があったので、マリア・モンテッソーリのお墓参りに行った。マリアにまず謝った。「ご免なさい。教育のためではなくて、自分の生活費のために就職活動をして、ご免なさい。」そしてマリアの声がして、「まず、生活を安定させることが第一だからね。」帰りの電車に乗っている途中で、スペインからメールでオファーが届いた。私が担当した生徒たちは小4から小6で、とてもいい子たちだった。(私はいつでも生徒に恵まれてきたが、良い先生が良い生徒をつくるのではなく、良い生徒が良い先生をつくるのだと思う。) しかし勉強は酷かった。算数では1回も割り算をしたことがない子がいたりして、校長にそのまま卒業させても良いのか訊ねたところ、‘That’ OK.’ モンテッソーリスクールは自由であるが、勉強しない自由はない。それを取り違えている学校が世界中にある。

帰国する前にタイとインドに行った。

モンテッソーリ教育は6年ごとの3段階に分けて行われる。

幼児期／0～6歳

•Sensitive Period／敏感期 •五感(特に手の練習)を鍛える •Order(順序)の練習

☆この時期の子たちには何度も同じ事を集中させてやる。(一人仕事)

児童期／6～12歳

•安定期 •独り仕事→グループワーク •集団の中での立ち位置 •ものごとの原理を知る

☆歴史教育は46億年前から ☆生物へのアプローチ ☆ピンクタワー(算数・数学)

思春期／12～18歳

•Sensitive Period／第二の敏感期 •心と体が「大人への準備」(マリアの考えでは、激しい運動やストレスを与えず、ゆったりとさせる)

•Maximum Effort／熱中 •Valorization／価値・評価 •『外の世界』に向かう

モンテッソーリの仕事に対する考え(マリアの言葉)

自分で決めた仕事=Spontaneous Work →集中する

人から指示された仕事=Labor Work →サボる

従来の学校とモンテッソーリスクールの比較

	従来の学校	モンテッソーリスクール
先生	Teacher→教師が主導	Guide→子供が主導
クラス	同学年→先輩・後輩の関係	異学年→兄弟姉妹の関係
授業	同じ教材・同じ進度→テスト(競争の原因)	自分で内容、時間を選択→親の前で発表
評価	相対評価・他人が決める→減点・失敗に弱い	自分の満足→失敗に強い
目的	知識の習得・学力向上→枠内で努力	自己教育→際限がない

【フリースクールについて】

教育機会確保法,,,,,本来なら学校に行かなければいけない子が、学校に行けないとき、フリースクールのようなところに行って学校を卒業させてやろうという法律。学校に行けない理由が次の3つの場合、はフリースクールに行けば卒業と認められる。①不登校、②病気・療養、③特別な勉強をしたい人(モンテッソーリはこれに当たる。)

2020年から小中学生の不登校が急激に増えている。原因はコロナ、家でゴロゴロしている習慣がそのまま続いてしまっている。文科省が調査した不登校の原因は、いじめ、教職員への反抗・反発（これはイジメより割合が高い。）その他は宿題が出来ていない。（真面目な子ほど多い。）こういう子たちのためにフリースクールがある。

フリースクールとは

- 明確な定義がない。
- 誰でも設立が出来る。
- 公立学校に学籍・校長の承認必要
- 文科省の縛りがない。（学習指導要領を守る必要がない。）

皆さんの知恵をつかってフリースクールを是非ともやっていただきたい。圧倒的に生徒に力がつくと思う。

質疑応答

Q: 「校長の承認必要」と言うことだが、そんなに簡単に承認してくれるのか？

A: 人による。フリースクールに通っている子が多い地域は、校長もやり慣れている。まずは、(フリースクールに)既に通っていると言う事実が大切。

Q: フリースクールを設立する際大切なことは？

A: フリーを与え過ぎるとケイオスになってしまいます。子どもたちがOrderをちゃんと知っていないとぐちゃぐちゃになる。

Q: 月謝はいくら位？

A: 180,000位。公教育では一人月14万位使っているが、こちらは公的機関から1円もいただいていないので、それを考えれば高いとは思わない。

大会宣言

明治19年に公布された帝国大学令に、公教育とは「国家ノ須要ニ応スル學術技芸ヲ教授」するもの、つまり「国家に必要な人材を育てる」ことを目的として制度設計されたものであると記されています。そこから140年近く経った今、航空機などの交通手段の発達やIT技術などの進歩によって世界は相対的に小さくなり、「国家」という枠組みを超えたグローバル化の大きな波に、私たちは今まさに飲み込まれようとしています。

この大きな変革期にあって、「国家」という枠組みを前提とする母体の大きな公教育では、迅速で柔軟な対応はできません。こうした今こそ、私たち私塾や私学が、その先陣を切ってこの国の教育をリードしてゆく必要があると考えます。なぜなら私たちの携わる私教育は、「国家」という概念が登場する以前から、「世のため人のためになる人材を育てる」ことを目的としてスタートしたため、「国家」という枠組みを超えるグローバル化という大



大会宣言を読み上げる星野勝弘実行委員長

波にあっても揺るがず、勇気をもって変革の一步を踏み出

すことができるはずだからです。

その変革の一步として、私たちは本日、伊藤先生からモンテッソーリ教育について共に学びました。その教育法だけでなく、伊藤先生のこれまでのご経験を含め、本日この場に居合わせた皆様それぞれが、様々な点で大いに示唆を受けられたことと思います。

私たちは幸いにも、20年後や30年後のこの国や世界を担ってゆく子どもたちが、今まさに知性や理性を身につけようとしているその現場に立ち会い、手助けをするという喜びを日々享受しています。その一方で、20年後や30年後の未来に対して大いなる責任を負っていることにもなります。もちろん今日直面する大きな変革の波に立ち向かうには、我々一人一人の力では限界があるかもしれません。しかし、本日お集まりいただいた皆様とこれからも研鑽を積み、目の前にいる一人ひとりの生徒にさらなる情熱を注ぎ続ければ、知性や理性に基づいた平和で穏やかな明るい未来を、共に創ることができるはずです。私たちは自らがその礎となる決意と覚悟を改めて確認し、そして今日のこの50周年記念大会が、その一つの契機となることを祈念して、大会宣言といたします。

2025年11月2日

NPO塾全協50周年記念大会

実行委員長 星野勝弘

第二部 懇親会



内藤潤司 NPO塾全協会長・東日本ブロック理事長



公益社団法人 全国学習塾協会
会長 安藤大作先生



